

矢作川流域圏懇談会通信

R4 海・川合同部会編



発行日：令和4年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆海・川合同部会WG／現地視察を開催しました！

新豊田駅をバスで出発し、鵜の首掘削箇所、ヨシ原再生箇所、干潟・浅場造成箇所を視察しました。WGでは、干潟・浅場造成事業について、現地視察の結果を踏まえ話し合いました。また、西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携について話し合いました。

日時：令和4年11月22日（火） 10:00～16:15

場所：鵜の首掘削箇所・ヨシ原再生箇所・干潟造成箇所・西尾市文化会館

参加人数：24名（内オンライン参加2名） ＊事務局を含む



◆主な会議内容

1 現地視察

① 鵜の首掘削箇所

豊田市街地の浸水被害対策である鵜の首地区水位低下事業について、豊橋河川事務所より説明を受けました。

令和2年度より明治用水頭首工より上流の河道掘削が実施されており、鵜の首については狭窄部区間の開削により川幅を広げる工事が実施されます。これら工事により出た土砂は海まで運搬され、干潟・浅場造成に利用されます。

② ヨシ原再生箇所

自然再生事業の一環として実施されているヨシ原再生箇所におけるヨシ原再生の状況と発生した土砂の活用について、豊橋河川事務所より説明を受けました。事業では、陸地化したところの水際を盤下げし、冠水頻度を高めることによりヨシ原を再生していきます。盤下げにより発生した土砂は海まで運搬され、干潟・浅場造成に利用されます。

③ 干潟造成箇所

鵜の首地区水位低下対策事業・ヨシ原再生事業により出た土砂を使った干潟・浅場造成事業の状況について、愛知県水産課 谷川氏より説明を受けました。また、事業エリアの海域環境の変化と海鳥の状況について、西三河野鳥の会 高橋氏より説明を受けました。



鵜の首掘削箇所見学



ヨシ原再生箇所見学



干潟造成箇所見学



2 海・川合同部会WG

(1) 本日の振り返り・意見交換

愛知県水産課 谷川氏より、8月に撮影された干潟・浅場造成工事の動画を使って、土砂の運搬から海への土砂投入に至るプロセスについて解説していただきました。その後、現地を視察した状況を踏まえ、意見交換を行いました。

(2) 西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携について

矢作川流域圏懇談会の活動を見直し、広げていくための取組として、西三河南部生態系ネットワーク協議会と連携していくことが川部会より提案されました。

(3) その他

事務局より流域連携イベントの開催について報告されました。また、愛知・川の会 近藤氏より11月に開催された「中部のいい川ワークショップ」について報告されました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●鵜の首の掘削箇所見学

- 掘削土の何パーセントくらいを海に持っていつているのか？(青木)
 - ▶ 河道掘削の土砂は細かいので、全部を干潟・浅場の造材材として海まで持っていつている。(山路)
- 硬い岩が出た時の受入れ先の予定は立っているのか？(内田)
 - ▶ 受入れ先は検討中。運搬には渋滞を起こさないよう高速道路を使うので高コストな運搬となる。(山路)
- 鵜の首の掘削はいつごろから始まるのか？(高橋)
 - ▶ 都市計画変更、用地買収、民地との調整をこれから進めていく。そのため、河道掘削を先行させている。(山路)
- 鵜の首の事業について、矢作川漁業協同組合は理解を示しているか？(内田)
 - ▶ 平水よりも上を掘削するので、平水時の影響はないが、漁協ともよく話し合っていて進めていく。(山路)

●ヨシ原再生箇所見学

- 矢作川河口部の冠水頻度が下がっており、陸地化・樹林化が進行し、ヨシ原が衰退している。(山路)
- かつて河口堰の計画があり、上のほうまで高水敷を造った。それによりヨシ原がなくなってしまった。(高橋)
- ヨシ原再生と並行して、生物多様性のある環境を創出する目的でワンドを造る計画である。(山路)
- 棚尾橋の下流辺りに一番良いヨシの生育環境がある。ワンドもできている。(高橋)
- 整備したヨシ原は鳥類や底生動物などのモニタリング調査を実施している。また、年1回、ヨシの根を植えるイベントを実施しており、環境学習に適した場所としていきたいと思っている。(山路)

●干潟造成箇所見学

- ヨシ原再生箇所から13000㎡、鵜の首の工事箇所から13000㎡の砂を干潟・浅場造成に使う予定。(谷川)
- 2.5mより深い水深のところに砂を約50cm盛って干潟・浅場を造成する。時期は4~10月を予定。(谷川)
- 浅場というのは2mくらいの水深なのか？(牧内)
 - ▶ 浅場は5mより浅いところを指す。アサリ漁場を造成しているので、2mくらいを浅場と考えている。(谷川)
- 昨年度の干潟造成面積は6.2ha。2030年まで毎年10haを造成していく計画である。(谷川)
- 2030年以降の計画はどうか？(牧内)
 - ▶ 計画としては2021年から5ヶ年だが、補修も含め、2030年で終わりというわけではない。(谷川)
- 海上の風向きなどによっては貧酸素水塊が表層に上がってくる。このあたりの青潮などの状況はどうか？(内田)
 - ▶ 平成10年あたりは苦潮でアサリが多く死んだという話があったが、最近ではかなり減ったと思われる。(谷川)
- 干潟を造ろうと思うと、土砂置場や船着場が必要となる。ここは元々どういうふうに使われていたのか？(青木)
 - ▶ この港は、現在造っている途中ということになっていて、まだ一般利用はされていない。(谷川)
- 14号地~矢作川河口部は、2mくらいの深さの浅い海で、陸域には塩田が広がっていた。非常に多くの鳥が観察でき、珍しい鳥が渡来してくる環境だった。万単位のチドリ群れが飛び回っていたが、最近は激減している。(高橋)

●海・川合同部会WG

- 土砂を海に撒く範囲は、事前に範囲を決めておくのか？(内田)
 - ▶ 測量で工事地を決め、砂を入れていく。事前に場所を確認し、盛り過ぎたりしないよう注意して施工する。(谷川)
- 土砂を投入している時に濁りとかは出ないのか？(牧内)
 - ▶ SSを測定しており、今のところ濁りはなく問題はない。水質汚濁防止幕は使っていない。(谷川)
- 造成した浅場・干潟は10年間もつと考えている。砂を入れた後、悪くなっている場合は補修していく。(谷川)
- 例えば、風速20mくらいの台風が来た時、砂はどのように移動するのか？(太田)
 - ▶ かなり強い波を想定して計算しており、風速20m程度の台風であれば形状は崩れないと考えている。(谷川)
 - ▶ 潮流とかいろいろ砂が流れる要因はあるので、何年かたっただらなくなるというのは想定していると思う。(青木)
- 土砂バイパストンネルで将来的には大量の土砂が川を移動することになるが、干潟造成への影響はどうか？(内田)
 - ▶ 砂の流れ込む状況によっては何とも言えない。事前に測量等を行い検討していく。(柴田)
- 土砂を海に出すという動きになった背景には、治水との関係があると考えてよいか？(青木)
 - ▶ 今まで治水事業で砂が出ても、干潟造成など受ける側の準備ができていなかった。今回はタイミングが良かった。総合土砂管理などで協力体制ができればよいと考えている。(山路)

今後の予定

■次回川部会WG：令和4年12月12日(月)10:00~12:00 岡崎市民会館 集中室 中会議室B

■次回海部会まとめの会：令和5年1月24日(火)14:00~16:30 西尾市中央ふれあいセンター

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課までお送りください。

